

Topics / Insight

2021年10月の注目ディール: ユニバーサルエンターテイメントの子会社が米国でDe-SPAC 上場

2021年11月13日

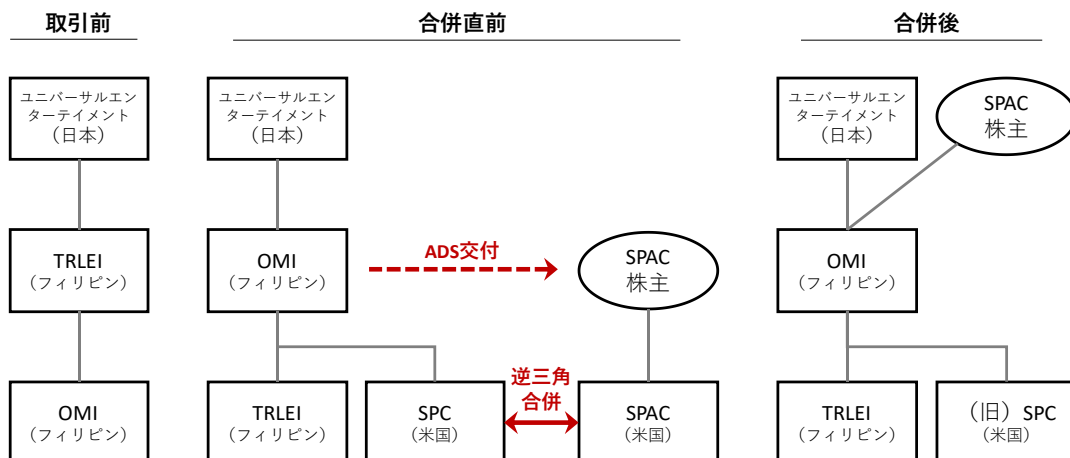
フィリピン子会社のNASDAQ 上場

2021年10月15日、ユニバーサルエンターテイメントは、フィリピンの100%子会社であるOKADA MANILA INTERNATIONAL (OMI)を、米国NASDAQ 上場のSPAC(特別買収目的会社)との合併を通じて同市場に上場させることを公表しました。日本企業が関連するDe-SPAC 上場は、本年9月におけるサン電子のイスラエル子会社の事例に続いて2例目です。

SPAC/De-SPACとは

SPACとは、事業会社を買収することを目的として設立されたペーパーカンパニー。設立後、上場して資金を集め、その資金を元手にして未公開企業を買収します。このSPACが事業会社との合併によりSPACのステータスから解除されることをDe-SPACと言います。SPACの買収対象となる未公開企業側から見ると、De-SPACはIPOの長く厳しい審査を経ずして上場が可能となるという大きなメリットがあります。

本件のストラクチャー(逆三角合併)



本件では、ユニバーサルエンターテイメントのフィリピン子会社であるOMIが、米国にSPC(特別目的会社)を買収ビークルとして設立し、当該SPCを消滅会社としてSPACとの逆三角合併を実施します。その結果、存続会社であるSPACの既存株主は、保有するSPAC株式がOMI株式を表象するADS(American Depositary Share)を引受ける権利に転換されることを通じ、OMIのADSを取得することになります。このADSはSPAC株式に代ってNASDAQに上場され、OMIは



Topics / Insight

NASDAQ 上場会社となります。一方、消滅会社である SPC の株式は、SPAC 株式に転換され、OMI は(旧)SPAC の株主となります。本件では、OMI は株式の 8 割以上を所有し、(旧)SPAC を連結子会社とする予定です。

また、OMI の親会社であり、統合型リゾート事業をフィリピンで展開している TIGER RERORT, LEASURE & ENTERTAINMENT (TRLEI) は、フィリピンにおける規制・税制等に対応するために、本件 De-SPAC 実行前に事業再編を通じて OMI の子会社となる予定です。

ユニバーサルエンターテイメントの市場株価を見ると、De-SPAC を公表した 10 月 15 日における終値 2,467 円に対し、翌営業日の 10 月 18 日の終値は 2,723 円と 10% 高くなりました。その後は 2,700 円前後で推移しています。実際の De-SPAC 成立予定は 2022 年 6 月末までとされており、De-SPAC の効果が現れるのはまだ先ですが、本件取組に対して市場は一定の評価をしたと言えるでしょう。

SPAC・De-SPAC 取引の今後

SPAC は日本では認められていませんが、米国では1980年代からある仕組みです。英国、ドイツを初めとする欧米諸国に加え、韓国、マレーシアなどアジアの一部の市場でも認められていますが、現在の実績としては米国が圧倒的な存在感を示しています。その米国では 2017 年に取引所の制度緩和をきっかけとして、急激に SPAC による上場が増加してきました。2020 年における SPAC の IPO は 248 件。2021 年も 9 月までに既に 447 件を数える勢いです。日本においても、SPAC 導入の検討は既に始められていますが、実際の導入にはまだ時間が必要であるとみられます。

日本企業においては、ソフトバンクが米国にて複数の SPAC を上場させて、新たな投資機会を狙っています。また、11 月にはマネックスグループが米国子会社を De-SPAC 上場させることを発表しました。このことは、米国における資金調達やベンチャー投資を目論むのであれば、今後、SPAC / De-SPAC は日本企業にとっても検討すべき一つの選択肢として位置付けられると良いでしょう。

<問い合わせ先>

ベネディ・コンサルティング株式会社

Mail: info@benediconsulting.jp

Web site: <http://benediconsulting.jp>